

2019年度

# 言語聴覚士専攻科入試

国語総合

(古文・漢文除く)

[60 分]

「期（一般）」

平成三十一年度 武蔵野大学 専攻科

言語聴覚士養成課程 入学試験問題（七月二十九日）

「国語総合」

【一】次の文章を読んで、論旨に基づいて問いに答えなさい。ただし、本文抜粋の継ぎはぎではなく、自分の文章で解答すること。

「象徴の森」

人間は無数の刺激にさらされて生きる。その刺激の多様さの前に、圧倒されないのがむしろ（こ）フシギに思う。反応のレパートリーからみるときわめて貧弱な子どもも、そのような刺激に圧倒されずに、立派にそれらに立ち向かっていく。もし個々の刺激の物理的性質の一つ一つにまったく受け身に反応していこうとするのなら、（い）ソウバン子どもは破産してしまうことになるだろう。

子どもが、そのような刺激に満ち満ちた外界に対処してゆけるのは、その外界を、自分にとっての一つの意味ある世界としてまとめあげてゆこうとする力があるからだと思われる。個々の刺激に応接するのでなく、それらを自分にとって意味のある「記号」としてうけとめ、外界と自分、あるいは外界のなかの刺激と刺激のあいだを関係づけ、経験を組織化して（せ）ホリユウし、それらを背景にしなから一つ一つの刺激に対処していく。ウェルナーは、人間は、刺激に対して反応するのでなく、対象について考えるところにその特徴があるとしている。

そして、これとともに重要なことは、外からの刺激を記号として読みとるだけでなく、そうした関係づけや読みとりを逆に利用して、自分の行動そのものを他人に対する記号として使用していく点である。外界を「記号化」してうけとめるだけでなく、自分の行動をも「記号化」してゆく。

このようにみえてくると、はじめに人間は「無数の刺激にさらされて生きる」と書いたのは、「さまざまな記号の世界に生きている」と言いなおす方がよさそうである。さらには、詩人の言ったように、人間は「象徴の森」に住むと言うのが、いちばん適切なものかもしれない。

記号というとき、それは一つの意味関係を前提としている。つまり、記号はそれによってさし示されるなんらかの対象（事象）との関係の上に成り立つ。「意味するもの（能記）」と「意味されるもの（所記）」との関係ともよばれる。学者によって記号の分類も異なるが、ここでは先ず、シグナル（信号）、インデックス（標識）、シンボル（象徴）という三つの形に分けて、シンボルの特徴を明らかにしておきたい。

## シグナル

有名な<sup>②</sup>条件反射の実験でいうと、犬に特定のベルの音を聞かせた後、エサを与えるとという刺激系列をくり返す。はじめはエサに反応して(エ) ダエキを出していたのが、やがてベルの音を聞くだけでダエキを出すようになる。ここでは、ベルの音が、あとへくるエサを意味するという能記<sup>①</sup>所記関係が形成される。ベルがシグナルとしてのはたらきをもつにいたる。

最初は母親の乳首に吸いついてはじめて泣き止んでいた子が、やがて、授乳のときの姿勢にされるだけで、泣き止んだり、さらにのちには、母親の近づいてくる足音だけで泣き止んだりするようになる。この場合、自分の姿勢感覚や母親の足音がシグナルとしての役割をもつに至ったことを示す。同じことは母親の側にもいえる。子どもの示すいろいろの動作や、発声を、母親は、ある特定の状態や要求を示すシグナルとして受け取っていく。そしてそれによって子どもはシグナルの受け手としてだけでなく、みずからシグナルの意図的な送り手になってゆく。

## インデックス

目を閉じたままでも、リンゴの香りをかいただけで、それがリンゴだということがわかる。その特定の香りが、リンゴであることを示しているのであるが、こうした場合、香り(能記)はリンゴ(所記)のインデックスとしてはたらいっているという。

子どもの例で言うなら、生後半年ぐらいまでは、いつも自分が遊んでいる人形の脚だけが物かげから見えていても、それが人形であることになかなか気づかない。その脚はいつも自分がかんで遊んでいるのに、その部分を見るだけでは、人形だとわからない。しかし、八か月頃ともなると脚だけ見てもすぐ人形だとわかり嬉しそうにつかみにゆく。脚が人形のインデックスになるわけである。

私たちの知覚や認知世界は、対象のインデックスの集合から成り立っているといえる。物を見て、その物とわかるのはなぜか。私たちがある人の顔を知っているというとき、実はその人の顔のディテールまですべてを知っているのではなく、その顔の代表となる特徴的部分を知っているということであろう。特徴というのは、もとの全体に対してもっともインデックスとしての力を(モ) ハッキしややすい部分といえる。

## シンボル

一歳半の子どもが、積み木やブロックを畳にすりつけながら押してまわっている。バスにみたくて遊んでいるらしい。その積み木やブロックはたんなる木片ではなく、それでもって本人はバスを意味している。あるいは、ブロックがバスとして意味づけられているともいえよう。この場合、ブロック

はバスの象徴（シンボル）としてはたらいっているといわれる。

ここでみられる能記<sup>1</sup>所記の関係は先にあげたシグナルやインデックスの場合とは大きく異なっている。シグナルとインデックスでは、能記と所記になりうる関係がもともとその状況のなかの刺激<sup>1</sup>行動系列として、また事物の属性として、あらかじめ<sup>(カ)</sup>センザイ<sup>1</sup>していて、それを子どもが見出し、利用していったものといえるだろう。これに対して、ブロックとバスは<sup>(3)</sup>（ ）<sup>(1)</sup>ということができる。

### 模倣の意味

シンボルの形成に大きくあずかっているのはなんと言っても、模倣（他者模倣）である。子どもの模倣は普通、生後八、九か月頃に入って大きい進歩をとげ、この頃からは自分の持ち合わせていないような新しい動作や音声を積極的に模倣できるようになってくる。

模倣によって子どもの新しい動作や音声のレパートリーは<sup>(キ)</sup>キユウゲキ<sup>1</sup>に増大する。そして、一歳台の前半に入ってくると、ただ相手の動作をその場で模倣して再現するという<sup>(シ)</sup>ソクジ<sup>1</sup>模倣だけでなく、時間を経たからの再現も可能になってくる。

こうした模倣が進むと、相手の動作を利用することによって、相手やそれを含む状況をそこに<sup>(セ)</sup>ビョウシュツ<sup>1</sup>したり、自分が相手の人を演じてみるような行動がでてくる。つまり相手の動作を自分に借り入れ、それを能記として対象をあらわそうとするのである。絵具によるのではなく、行動によるタブローを描こうとするのである。それがごっこ遊びのなかに組み入れられてくると、明らかにその動作はシンボルとしての役割を果しはじめる。

また、遊び面だけでなく、他人との<sup>(ヨ)</sup>コウショウ<sup>1</sup>でも、シグナル動作がシンボル化してくる。おんぶしてほしい場合、それまでは両腕をつき出すシグナルで訴えていた子が、二歳を過ぎた頃、母親がおんぶするときにする動作（背中の上しろで両手を組む）を自分でやってみせることによって訴えるようになったという報告はまことに興味深い。自他の同型的行動である模倣は協約的動作や音声の成立にきわめて有利な性質をもっていることを述べておいたが、同時に模倣は相手の動作を自分に借り入れ、それを表現手段に利用していくという点において、象徴の形成にも不可欠のはたらきをしているのである。ただし、シンボルとなっている動作は、それによってあらわそうとしている対象の動作との同型性をより所としている限り、能記と所記の分化は完全ではない。このことは、ブロックをバスに見たてる例でもいえる。両者は全く別個の物ではあるが、そこでは形態の知覚的類似性が手ばかりになっている。<sup>(4)</sup>両者の完全な分化はことばシンボルをまたねばならないのである。

問一 傍線部①について、そうであるならどのようなことになると考えられるか、ことばの場合を例にとつて説明しなさい。

(五〇〜六〇字程度)

問二 傍線部②以下四行の実験で知られる十九〜二十世紀に生きた生理心理学者の名前を書きなさい。

問三 文中の「シグナル」と「インデックス」の違いについて、「シグナルは〜であるのに対して、インデックスは〜である。」という形式で説明しなさい。

(六〇〜八〇字程度)

問四 文全体の論旨を踏まえ、傍線部③のかつこ内を埋めなさい。

(五〇〜六〇字程度)

問五 傍線部④について、「ことばは〜という点で両者が完全に分化しているのか説明しなさい。」

(一二〇〜一五〇字程度)

問六 傍線部(ア)から(ゴ) のカタカナ部分を漢字に直しなさい。

(ア)フシギ (イ)ソウバン (ウ)ホリユウ (エ)ダエキ (オ)ハッキ

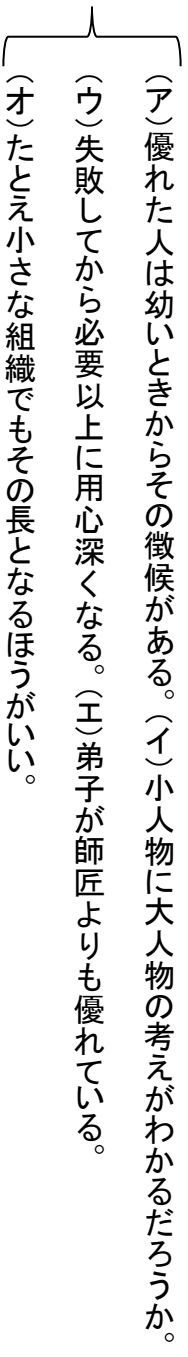
(カ)センザイ (キ)キュウゲキ (ク)ソクジ (ケ)ビョウシユツ (コ)コウシヨウ

【二】次の傍線部を漢字に直した場合、同じ漢字であれば○、違っていれば×を書きなさい。

- (一) 患者のカイホウをする。 病気がカイホウに向かう。
- (二) 内政不カンシヨウ。 親の過カンシヨウ。
- (三) それはカンジン要。 興行のカンジン元
- (四) 調査タイシヨウとする。 左右タイシヨウの図形。
- (五) ハカらずも合格した。 合理化をハカる。

【三】次のことわざの意味を選択肢の中から選び、記号「ア」～「オ」で答えなさい。

- (一) 青は藍より出でて藍より青し
- (二) 糞に懲りて膾を吹く
- (三) 燕雀安んぞ鴻鵠の志を知らんや
- (四) 鶏口となるも牛後となるなけれ
- (五) 梅檀は双葉より芳し



【四】正しい漢字を選び、記号「A」～「C」で答えなさい。

- (一) 大使を本国にシヨウカン「A 召喚 B 償還」する。
- (二) 学問を「A 修 B 治 C 納」める。
- (三) 「フシン」A 普請 B 不審「な船が近づく」。
- (四) 「ニ壘手のセッシユ」A 接手 B 拙守「で敗れた」。
- (五) 「セイコン」A 精魂 B 精根「つきはてる」。